

# *Mahāśītavatī*の注釈書について

## —*Mahādaṇḍa dhāraṇī*との比較を中心に—\*

園 田 沙 弥 佳

### 1. はじめに

*Mahāśītavatī* 『大寒林陀羅尼』(略号 ŚV) は5種の初期密教經典の集成である五護陀羅尼 (*Pañcarakṣā*)<sup>1</sup> に属しており、先行研究において2種類の存在が確認されている<sup>2</sup>。従来の五護陀羅尼研究では「五護陀羅尼」という語を示す際、特に言及がある場合を除き、サンスクリット・テキスト、漢訳、チベット語訳間で内容が共通する經典を指すことが多い。一方、チベット大蔵經における2種のŚVのうち「大寒林」の名を持つ經典(後述するŚV-B本)と *Mahāmantrānusāriṇī* 『大護明陀羅尼』には、チベット語訳にのみ存在する内容があることが[岩本1937a:序説][Skilling 1992:141-142][奥山1998]等の研究によって指摘されている<sup>3</sup>。五護陀羅尼の構成はその内容から2つの系統に大別されることから、本論文では五護陀羅尼に属する各經典の内容を明確に区別するため、サンスクリット・テキスト、漢訳、チベット語訳間で共通する内容を「サンスクリット系統」、チベット語訳にのみ存在する内容を「チベット語訳系統」と称する。

本論文で取り上げるŚVには、以下の2種類の内容が存在している。第一に、経題は異なるがサンスクリット系統内で内容が共通する *Mahādaṇḍa dhāraṇī* 『聖持大杖陀羅尼』<sup>4</sup> (以下ŚV-A本と称する)、第二に、経題に「大寒林」の語が含まれる *Mahāśītavana sūtra* 『大寒林經』<sup>5</sup> (以下ŚV-B本と称する)である。ŚV-A本はサンスクリット系統、ŚV-B本はチベット語訳系統の五護陀羅尼に含まれていることから、ŚVは五護陀羅尼の2つの系統を区別するための重要な經典の一つである。

11世紀初頭<sup>6</sup>のカルマヴァジュラ (Karmavajra, Las kyi rdo rje) は、*Mahāpratisarā* 『大

\*本研究はJSPS科研費JP19K12950の助成を受けたものである。This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number JP19K12950 (Grant-in-Aid for Young Scientists)。

1 *Mahāpratisarā* 『大随求陀羅尼』、*Mahāsāhasrapramardanī* 『守護大千国土經』、*Mahāmāyūrī* 『孔雀王呪經』、*Mahāśītavatī* 『大寒林陀羅尼』、*Mahāmantrānusāriṇī* 『大護明陀羅尼』の5種。

2 (Skilling 1992:141-142)(奥山1998:68-71)

3 筆者は[園田2016][園田2018]において、それぞれŚVと『大護明陀羅尼』の具体的な内容構成をサンスクリット・テキスト系統とチベット語訳系統間で比較検討し、両經典のチベット語訳はサンスクリット・テキストおよび漢訳の内容と比較して大きく異なっていることを明らかにした。

4 *'phags pa be con chen po zhes bya ba'i gzungs* (*Ārya mahādaṇḍa nāma dhāraṇī*), D, No.606=958 P, No.308=583

5 *bSül ba'i tshal chen po'i mdo* (*Mahāśītavana sūtra*, 『大寒林經』) D, No.562 P, No.180

随求陀羅尼』を除く4種の五護陀羅尼に関する注釈書を著している<sup>7</sup>。そのうち『明呪大妃大寒林經十萬註』 *Mahāśītavatīvidyārājīnī-sūtra-śatasahasraṭīkā*<sup>8</sup>-*nāma* (略号 ŚVŚS)<sup>9</sup> はチベット大蔵經に収録されている ŚV の注釈書であるが、その内容はチベット語訳において「大寒林」の名を持つ ŚV-B 本とあわせて ŚV-A 本の注釈もなされている<sup>10</sup>。本論文では ŚV の注釈書である ŚVŚS の内容構成を明らかにした上で、2系統の ŚV の位置づけについて述べる。また、ŚVŚS で注釈の対象としている經典のうち、今回は ŚV-A 本のテキスト部分を抜粋・再構成し特色を明らかにすることで、2種の ŚV が成立した背景を解明する一助としたい。

## 2. *Mahāśītavatī* と *Mahādaṇḍadhāraṇī*

五護陀羅尼に属する經典はサンスクリット・テキスト系統の5種に加え、チベット語訳系統に含まれる ŚV-B 本と *Mahāmantrānudāri-sūtra*<sup>11</sup> の2種を合わせた計7種類が確認されている(次ページの表1参照)。ŚV-A 本はサンスクリット系統の五護陀羅尼の中で最も短い分量の經典だが、前述のチベット語訳系統に含まれる ŚV-B 本を含めた場合は7經典中4番目に分量が多い經典となる<sup>12</sup>。

ここで2種の ŚV の内容に関して簡単に述べると、ŚV-A 本は寒林で様々な障りに苦しめられていたラーフラに対して世尊が大寒林陀羅尼を授ける場面が説かれている。他方、ŚV-B 本は世尊と四天王の対話が中心で、世尊が四天王の陀羅尼より優れた「大寒林陀羅尼」を授ける場面が説かれている。なお、ŚV-B 本にラーフラの名は直接登場しない。前述の通り、両者は先行研究において ŚV と見なされているものの、ŚV-A 本、B 本間の経題は異なっている上、内容構成自体にも大きく相違がある。

ŚV の経題に関しては、[塚本他 1989 91-92] [Hidas 2017: 451] において「大寒林 [という名の] 陀羅尼」「大寒林大杖陀羅尼」等といった複数のバリエーションが存在することが示されている。漢訳では『大寒林聖難拏陀羅尼經』と名付けられており、経題の「難拏」は『仏書解説大辞典』『密教大辞典』によると「歓喜」の意味であると示される一方、[岩本 1937a: 10] [奥村 1973: 42-43] ではサンスクリット語の 'daṇḍa' (杖) の音訳であ

6 (Hidas2017: 451)

7 *Mahāsahasrapramardanī-sūtra-śatasahasraṭīkā* 『大千善摧經十萬註』 (D, No. 2690 P, No. 3514)、*Mahāmāyūrīvidyārājīnī-sūtra-śatasahasraṭīkā-nāma* 『明呪王大孔雀經十萬註』 (D, No. 2691 P, No. 3515)、*Mahāmantrānudhāraṇī-sūtra-śatasahasraṭīkā* 『大秘密真言隨持經十萬註』 (D, No. 2692 P, No. 3516)

8 原文では“-śatasahasraṭīkā-”とある一方、東北目録および大正目録では -śatasahasraṭīkā- として収録されている(東北目録では原文のローマナイズが注記されている)。

9 *Riḡ sngags kyi rgyal mo chen mo bsil ba'i tshal gyi mdo'i 'bum 'grel zhes bya ba* (D, No. 2693 P, No. 3517)

10 SONODA, Sayaka. 2021. “The Composition of the Pañcarakṣā.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 69 に掲載予定

11 *Gsang sngags chen po rjes su 'dzin pa'i mdo* (『大真言隨持經』) D, No.563 P, No.181

12 *Mahāpratisarā* P. No. 179, 119b4-141b4, *Mahāsāhasrapramardanī* P. No. 177, 63b7-87b7, *Mahāmāyūrī* P. No. 178, 87b7-119b4, *Mahāśītavatī* P. No. 180, 141b4-153b5 (cf. *Mahādaṇḍadhāraṇī* P. No.308, 76a2-78a4)、*Mahāmantrānusāriṇī* P. No. 181, 153b5-160a4 (cf. *Ārya-vaiśālī-praveśamahā-sūtra* P. No. 142, 9a6-13a8)

るといふ。前述のようにチベット語訳 ŚV-A 本の経題にも 'be con' (杖) が用いられていることから、漢訳経題の「難拏」は 'daṇḍa' の音訳と解釈することが適切と思われる。

また、近年 [Hidas2017: 452-3] の研究によって ŚV の経題にはかなりの流動性を示していることが指摘されており、*Mahādaṇḍadhāraṇī* を原型として *Mahāśītavati* へと変化した可能性があるといわれている。これらの経題のバリエーションは東大写本松濤目録 (Matsunami 1965: 315) において確認できるため、ŚV の経題の相違は訳出元の写本に由来するものと推察される。次に、ŚV の注釈書における 2 種の ŚV の位置づけについて述べよう。

サンスクリット・テキスト系統	チベット語訳系統	(参考) <i>Karmavajra</i> 注釈書
	『大随求陀羅尼』 (※梵蔵漢で共通)	—
	『守護大千国土經』 (※梵蔵漢で共通)	『大千善摧經十萬註』 <i>Mahāsahasrapramardanīsūtra-śatasahasraṭkā</i> D, No. 2690 P, No. 3514
	『孔雀王呪經』 (※梵蔵漢で共通)	『明呪王大孔雀經十萬註』 <i>Mahāmayūrīvidyārājñīsūtra-śatasahasraṭkā-nāma</i> D, No. 2691 P No. 3515
『大寒林陀羅尼』 (ŚV-A本)	『大寒林陀羅尼』 (ŚV-B本)	
Skt. <i>Mahāśītavati</i> (Iwamoto1937b)(Hidas2017) Chi. 『大寒林聖難拏陀羅尼經』 (大正21, No. 1392) 宋法天訳Ad.984 Tib. <i>'Phags pa be con chen po shes bya ba'i gzungs</i> ( <i>Ārya mahādaṇḍa nāma dhāraṇī</i> , 『聖持大杖陀羅尼』) D, No.606 = 958 P.No.308 = 583 Jñānasiddhi, Dānaśīla, Ye shes sde 訳 (8C頃)	Skt. ⇒欠 Chi. ⇒欠 Tib. <i>bSil ba'i tshal chen po'i mdo</i> ( <i>Mahāśītavana sūtra</i> , 『大寒林經』) D, No.562 P, No.180 Śīlendrābodhi, Jñānasiddhi, Śākyaprabha, Ye shes sde 訳	『明呪大妃大寒林經十萬註』 (ŚVŚS) <i>rig sngags kyi rgyal mo chen mo bsil ba'i tshal gyi mdo'i 'bum 'grel zhes bya ba</i> ( <i>Mahāśītavatīvidyārājñī-sūtra-śatasahasraṭkā-nāma</i> ) D, No. 2693 P, No. 3517
『大護明陀羅尼』 (MN-A本)	『大護明陀羅尼』 (MN-B本)	
Skt. <i>Mahāmantrānusāriṇī</i> (Skilling1994, 608-622) Chi. 『大護明大陀羅尼經』 (大正20, No. 1048) 宋法天訳Ad.984 Tib. 欠 (※ <i>Ārya-vaiśālī-praveśamahā-sūtra</i> (D, No.312 P, No. 142) および根本説一切有部律『藥事』中の <i>Bhaiṣajyavastu</i> (P, No. 1030 D, No. 1) と関連が深い)	Skt. 欠 Chi. 欠 Tib. <i>Gsang sngags chen po rjes su 'dzin pa'i mdo</i> ( <i>Mahāmantrānudāri sūtra</i> , 『大真言隨持經』) D, No.563 P, No.181 Śīlendrābodhi, Jñānasiddhi, Śākyaprabha, Ye shes sde 訳	『大秘密真言隨持經十萬註』 <i>gsang sngags chen mo rje su 'dzin ma'i mdo'i 'bum 'grel</i> ( <i>Mahāmantrānudhāraṇīsūtra-śatasahasraṭkā</i> ) D, No. 2692 P, No.3517

表 1. 系統別 Pañcarakṣā 構成表<sup>13</sup>

13 この表は [Iwamoto1938] [塚本・松長・磯田 1989] [奥山 1998] を基に筆者が作成した。

### 3. 『明呪大妃大寒林經十萬註』の内容構成

ŚVの注釈書であるŚVŚSはチベット大蔵經に収録されており、対応するサンスクリット・テキスト、漢訳は現在確認されていない。また、注釈対象であるŚV-A本とŚV-B本はチベット大蔵經においてそれぞれ別個に収録されているが、ŚVŚSでは両者の經典が併せて注釈されている。両經典と注釈書の引用テキストを比較すると、内容構成の異同や陀羅尼呪等に相違が生じているものの、經典の本筋はおおむね共通している。以下では表2の内容構成に従い、ŚVŚSの内容構成と特色について概略を述べる。

[0]	帰敬偈
[1]	ŚV-A本の注釈
[1.1]	ラーフラ尊者の苦惱
[1.2]	世尊の問いかけ
[1.3]	寒林陀羅尼
[2]	ŚV-B本の注釈
[2.1]	世尊と四天王の対話
[2.2]	四天王の陀羅尼
[2.3]	四天王の誓願
[2.4]	世尊の大寒林陀羅尼
[2.5]	陀羅尼による地や空の変化
[2.6]	毘沙門天の陀羅尼呪
[2.7]	貴い『大寒林陀羅尼』の保持、読誦
[2.8]	四天王の帰還
[2.9]	今までのあらましと四衆の歡喜
[3]	奥付

表2. ŚVŚS内容構成<sup>14</sup>

[0] 帰敬偈      はじめに世尊と明呪の女王大寒林に帰依することが述べられる。本注釈書のサンスクリット原題“*सहस्रचक्रवर्तिनिद्वन्द्वसुद्वर्तिशरपद्मैर्गुणैः*”は、原文とチベット大蔵經目録（東北目録、大谷目録）の間で相違がある。例えば、原文の-*शरपद्मैर्गुणैः* (*saharaṣaṭīkā*)に対応する箇所について、東北目録では-*śatasahasraṭīkā*-と示され、原文の表記は注に記されている。原文では意味が不明瞭であるため、本論文ではチベット大蔵經目録に従い表記する<sup>15</sup>。なお、カルマヴァジュラ著のほかの五護陀羅尼經典に関する注釈書においても同様のことが生じており（本論文「資料」の注45を参照）、訳者はいずれもアモーガヴァジュラ Amoghavajra である。

[1] ŚV-A本の注釈<sup>16</sup>      ŚVŚSの前半部ではŚV-A本の注釈がなされる。ŚV-A本と引用テキストの具体的な比較は後述するため、ここでは注釈の概要を簡単に述べる。冒頭に「次のように私は聞いた」の「私」とはアーナンダ、「説く者」とは「世尊」であることや、「世尊」を表すチベット語‘*བཅོམ་ལྷན་དུ་བཤམ་པོ་*’の意味が示される。例えば‘*བཅོམ་*’「打ち倒す」とは四魔（蘊魔、煩惱魔、死魔、天子魔）を倒すことなどである。

また、本經典が説かれる場であるラージャグリハについて、カルマヴァジュラは以下の

14 この表は D, No.606 P, No.308, D, No.562 P, No.180, D, No. 2693 P, No.3517, [園田 2016, 2018] を参考に筆者が作成した。

15 そのほか、原文に-*राज्ञे*- (*rāja*, 王)とあるが、東北目録では *rājñī* (女王)とある。

16 經典の本筋はほぼ同一であるものの、ŚVŚSにはŚV-A本の本文に欠いている固有名詞等の引用が複数箇所存在する。





とが [大塚 2010] によって論証されている<sup>27</sup>。ŚV-A 本の特徴の一つである、ラーフラが鬼神に悩まされた場面について比較すると、『檀特羅麻油述経』のラーフラは「靈鷲山で夜就寝時に鬼神に悩まされて驚き起きた」<sup>28</sup>と説かれており、先に述べた注釈書の記述とは相違がある。ŚVŚS では一般的に知られるラーフラの性格が注釈において付加されたことが推察される。

また、本来 ŚV-A 本の原本終結部には世尊が説く大寒林陀羅尼を聞いて有情が歓喜する場面が説かれるが、注釈ではこの場面を欠いている。代わりに「明呪の心髓の章第一を終わる<sup>29</sup>」と結ばれており、続けて ŚV-B 本の注釈が始まる。

[2] ŚV-B 本の注釈 ŚV-B 本の注釈も前述した ŚV-A 本と同様に、概ねテキストに従って注釈される。内容は世尊と四天王との対話を中心に構成されているが、過去・未来・現在の仏や、仏弟子、四天王への帰敬偈、大寒林陀羅尼の功德や陀羅尼呪を欠くなど、一部の構成に異同が見受けられる。

また、ŚV-B 本は ŚV-A 本とは異なり、原本においてラーフラの名は直接明示されないが、注釈ではラーフラの名が 2 カ所明示されている ([2.9])。1 カ所目は『『世尊が以上のように説いた』とは、若いラーフラのためにこの大寒林経を説いたこと<sup>30</sup>』、2 カ所目は『『比丘』といわれるものはラーフラなど 250 人であるということ<sup>31</sup>』と説明されている。さらに ŚVŚS では ŚV-B 本の末尾に説かれているマンダラ作成の儀軌に関する記述を欠いているため、前述の有情が歓喜する場面をもって ŚV-B 本の注釈は終わる。

[3] 奥付 最後に、カルマヴァジュラによってこの注釈書が作られたことが述べられる。以上が ŚVŚS の概略である。

#### 4. ŚV-A 本と ŚVŚS のテキスト内容比較

チベット語訳 ŚV-A 本（『聖持大杖陀羅尼』）と ŚVŚS における ŚV-A 本テキスト引用部分を比較すると、ラーフラたちの歓喜の場面や奥付が省略されている以外に大きな違いはないものの、比丘の数や、陀羅尼呪で説かれる一部の神々の名称等に異同がある。両者の内容構成は次の表 3 に示した。以下、チベット語訳 ŚV-A 本と ŚVŚS における ŚV-A 本テ

27 ラーフラの住処について、『檀特羅麻油述経』では靈鷲山、ŚV-A 本のサンスクリット・テキストでは大寒林にあるインギカ Inghika である。両者ともラージャグリハの中であるということが共通する。

28 佛在摩竭國因沙奪山中。時佛子羅云隨佛在山中。羅云夜臥爲鬼神所驚起。(T1391, vol.21, p.908, a, II.6-7)

29 རིག་ལྷགས་ཀྱི་སྤྱོད་པོ་བཏགས་པ་དང་པོ་རྒྱུ་གསལ།

30 བཅོམ་ལུན་འདས་ཀྱིས་དེ་སྐད་ཅེས་བཀའ་རྒྱལ་ནས་ཞེས་བྱ་བ་ནི། གཤེན་ལུ་སྤྱོད་པོ་ལྷན་ཅན་ལ་མཁས་ཅན་གྱི་མདོ་ཚན་པོ་འདི་རྒྱས་པར་བཀའ་རྒྱལ་གྱི།

31 དགེ་སློང་དང་ཞེས་བྱ་བ་ནི་སྤྱོད་པོ་ལྷན་ཅན་ལ་མཁས་ཅན་གྱིས་བརྒྱུ་ལྷགས་པོ།

キスト引用部分を中心に比較し、適宜サンスクリット・テキスト、漢訳を参考にして、テキスト原本と注釈書で引用されている内容の相違点について述べる（具体的なテキストに関しては本論文の資料を参照。ŚVŚSにおけるŚV-A本のテキスト引用部分を抜粋し、再構成した）。

ŚV-A本	ŚVŚS (ŚV-A本引用部分)
[0] 帰敬偈	[0] 帰敬偈
[1] ラーフラ尊者の苦悩	[1] ラーフラ尊者の苦悩
[1.1] 寒林における障り	[1.1] 寒林における障り
[1.2] 世尊への謁見	[1.2] 世尊への謁見
[2] 世尊の問いかけ	[2] 世尊の問いかけ
[3] 寒林陀羅尼	[3] 寒林陀羅尼
[3.1] 目的	[3.1] 目的
[3.2] 陀羅尼前半部	[3.2] 陀羅尼前半部
[3.3] 陀羅尼後半部	[3.3] 陀羅尼後半部
[3.4] 陀羅尼の保持と効能	[3.4] 陀羅尼の保持と効能
[4] ラーフラ尊者たちの歓喜	
[5] 奥付	

表3. ŚV-A本およびŚVŚSの該当部分の比較<sup>32</sup>

まず比丘の数について、ŚVŚSでは「ある時世尊はラージャグリ

ハ（王舎城）[の] グリドラクタータ（靈鷲山）[において] 250人の比丘の大サンガとともにお座りになった<sup>33</sup>」([1.1])と述べられる。ŚV-A本のチベット語訳では「1250人の比丘<sup>34</sup>」とありŚVŚSの記述と異なっている。一方、ŚV-B本で言及されている比丘の数は「250人」であり、ŚVŚSで示されている人数と一致する<sup>35</sup>。

また、陀羅尼呪は大きく分けて2回説かれている（[3.2] [3.3]）。ŚVŚSではその大半が省略されているが、[3.2]の一部はテキストを引用して注釈がなされている。上記で引用されているテキストとŚV-A本を比較すると相違があり、さらに訳ごとに差異が生じている<sup>36</sup>。ŚVŚSおよびŚV-A本のサンスクリット・テキスト、漢訳、チベット語訳の該当箇所を対照すると以下のとおりである。

まず、サンスクリット・テキスト (a) では「インドラ王、ヤマ王、ヴァルナ王、クベーラ王、マナスヴィン竜王、ヴァースキ竜王、ダンダキー王、ダンダアグニ王、持国天、増長天、広目天、1000人の梵天の主である王、仏世尊である法王の王<sup>37</sup>」とある。

漢訳 (b) では「インドラ王、月王、ヴァルナ王、クベーラ王、マナスヴィン竜王、ヴァースキ竜王、ダンダキー王、1000人の仏の主である王、仏世尊である法王の王<sup>38</sup>」と

32 この表は D, No.606 P.No.308、D, No. 2693 P, No.3517、[園田 2016] を参考に筆者が作成した。

33 འདི་སྐད་བདག་གིས་ཐོས་པ་འདི་རྒྱལ་གཅིག་ལ། བཅོམ་ལྷན་འདས་རྒྱལ་པོ་ལྷོ་ལ། བྱ་རྩོད་ལུང་པོ་འདི་རི་དགེ་སློང་ཉིས་བརྒྱ་ལྔ་བརྒྱུ་འདི་དགེ་སློང་གི་དགེ་འདུན་ཚེ་བོ་དང་ཐབས་ཅིག་ཏུ་བཞུགས་ཏེ།

34 འདི་སྐད་བདག་གིས་ཐོས་པ་དུས་གཅིག་ལ། བཅོམ་ལྷན་འདས་རྒྱལ་པོ་ལྷོ་ལ། བྱ་རྩོད་ཀྱི་ལུང་པོ་འདི་རི་དགེ་སློང་རྩིས་བརྒྱ་ལྔ་བརྒྱུ་འདི་དགེ་སློང་གི་དགེ་འདུན་ཚེ་བོ་དང་ཐབས་གཅིག་ཏུ་བཞུགས་ཏེ།

35 サンスクリット・テキストと漢訳では比丘の数について言及されていない。

36 なお、注釈ではそれぞれの神々の身体的特色について説明されている。例えば「ヤマ王とは一面四臂で体色は黒、どう猛な姿で頭髮は螺旋状に編まれ、右の二臂に剣と杖、左の二臂に羂索と鉤を持ち、水牛に乗る」等という具合である。

37 indro rājā/ yamo rājā/ varuṇo/ kubero rājā/manasvī rājā/ vāsukī rājā/ daṇḍakī rājā/ daṇḍāgni rājā/ dhrtarāstro rājā/ virūdhako rājā/ virūpākṣo rājā/ brahmā sahasrādhipatī rājā/buddho bhagavān dharmasvāmī rājā/ ([Iwamoto 1937b: 3] [Hidas2017: 468])

38 印捺嚧囉惹 素謨囉惹 嚧嚧嚧囉惹 矩吠嚧囉惹 曩曩悉尾囉惹 嚧素闍囉惹 難拏乞頼囉惹 沒度娑賀娑囉地 跋底囉惹 沒度娑誑挽達麼娑嚧囉惹 (T1392, p.908, c. 1.26 - p.909, a. 1.4)

記述されている。

チベット語訳 ŚV-A 本 (c) では「王、月王、ヤマ王、風天の王、光王、ヴァースキ王の子息、杖の王、杖を持つ王、1000 人の王ブラフマー、仏世尊である法の王、法の王」と記述されている。

そして注釈書の ŚVŚS (d) では「王、インドラ、ヤマ王、ヴァルナ王、王、スーリヤ、風天の王、光王、心王、ヤマの杖を持つ王、火の杖を持つ王、杖を持つ王、勝利の王、一切の勝利の王、恐ろしい王、一切を見る王、ブータの王、眷属の王、増長天、広目天、毘沙門天、サハー世界のブラフマー王、法の王」とある。

上記 4 種類のテキストを比較すると、ダンダキー王（杖を持つ王）は全てのテキスト (abcd) に共通して登場した。このことは經典の名称（ダンダ、杖）に関連することによるものと思われる。さらに共通点を比較すると、サンスクリット・テキストと ŚVŚS (ad) 間の 8 例が最も多く<sup>39</sup>、次にチベット語訳と ŚVŚS (cd)<sup>40</sup>、サンスクリットと漢訳 (ab)<sup>41</sup> の間で 7 例確認できた。その中で、ad 間では四天王の名とダンダアグニ王が登場することが共通しているが<sup>42</sup>、bc では言及されていない。反対に、bc のみ月王（素謨囉惹、 $\text{शुभ्रवर्द्ध}$ ) が登場しているが、ad には記述がない。以上のことから、陀羅尼の異同に関してはサンスクリット・テキストと ŚVŚS、漢訳とチベット語訳間において共通点が比較的多く見られることが特徴的である（次ページの表 4 参照）。

## 5. まとめ

ŚV と見なされる經典は ŚV-A 本と ŚV-B 本の 2 種の存在が確認されており、チベット大藏経ではそれぞれ別個の經典として収録されている。以前筆者が両經典の内容を比較検討した際、内容構成が大きく異なることから広本と略本という関係ではないことを推察した。本論文で取り上げた ŚVŚS では、ŚV-A 本の注釈の終わりに「明呪の心髓の章第一を終わる」と記された後に ŚV-B 本の注釈が続く。この「明呪の心髓の章」に関しては章の名前を示している可能性がある他に、經典の分量が少ない明呪（ŚV-A 本）が ŚV-B 本の心髓であるという両者の関係性を示唆していることも考えられる。

以上のように内容や経題が異なる 2 種の經典が ŚV と見なされた経緯は未だ明らかではないものの、二つの經典が一つの注釈書に含まれた背景については以下の 2 点が推察される。1 点目に、当時 ŚV と見なされていた両テキストを注釈者が意図的に合体させて注釈

39 インドラ王、ヤマ王、ヴァルナ王、杖を持つ王、火の杖を持つ王、増長天、広目天、梵天王

40 ヤマ王、杖を持つ王、梵天王、王、風天の王、光王、法の王

41 インドラ王、ヴァルナ王、クペーラ王、マナスヴィン竜王、ヴァースキ竜王、ダンダキー王、仏世尊である法王

42 四天王のうち、サンスクリット・テキストでは持国天・増長天・広目天、ŚVŚS では増長天・広目天が登場する



ŚV-A本			ŚVŚS (d)	共通 パターン
サンスクリット・ テキスト (a)	漢訳 (b)	チベット語訳 (c)		
daṇḍaki rāja ダンダキー王	難拏佉頼囉惹 ダンダキー王	ལྷུ་པོ་བེ་ཙྰ་མང་ 杖を持つ王	ལྷུ་པོ་དབྱུག་རྟོ་ཙྰ་ 杖を持つ王	abcd
vāsuki rāja ヴァースキ竜王	嚩素闍囉惹 ヴァースキ竜王	ལྷུ་པོ་འོ་རྩ་ལྷུ་ལྷུ་ ヴァースキ王の子息		abc
buddho bhagavān dharmasvāmī rāja 仏世尊である法王の王	沒度婆訶挽達麼娑嚩弭囉惹 仏世尊である法王の王	མངས་ལྷུ་པོ་ཚོ་མ་ལུ་འདས་ཚོས་ཀྱི་རྗེ 仏世尊である法王		
indra rāja インドラ王	印捺嚩囉惹 インドラ王		དབང་པོ་ インドラ	abd
varuṇa rāja ヴァルナ王	varuṇa rāja ヴァルナ王		ལྷུ་པོ་རྩ་ལྷུ་ ヴァルナ王	
yama rāja ヤマ王		ལྷུ་པོ་གཤིབ་རྗེ་ ヤマ王	ལྷུ་པོ་གཤིབ་རྗེ་ ヤマ王	acd
brahmā sahasrādhipatī rāja 1000人の梵天の 主である王		ལྷུ་ཚངས་པ་རྩེད་ལྷུ་ 1000人の梵天王	ལྷུ་པོ་མི་མཐའི་དབྱིབས་གཤིབ་པོ་ཚངས་པ་ サハー世界の梵天王	ab
kubera rāja クベール王	矩吠嚩囉惹 クベール王			
manasvin rāja マナスヴィン竜王	麼曩悉尾囉惹 マナスヴィン竜王			ad
daṇḍāgni rāja ダンダアグニ王			ལྷུ་པོ་མེ་བེ་དབྱུག་རྟོ་ཙྰ་ 火の杖を持つ王	
virūḍhako rāja 増長天			ལྷུ་པོ་འཕམ་མས་སྐྱེས་པོ་ 増長天	bc
virūpākṣo rāja 広目天			ལྷུ་པོ་མིག་མི་བཟང་ 広目天	
	素謨囉惹 月王	ལྷུ་པོ་རྒྱ་པ་ 月王	ལྷུ་པོ་ 王 (1回目)	cd
		ལྷུ་པོ་ 王	ལྷུ་པོ་ 王 (1回目)	
		ལྷུ་པོ་གཤིབ་ 光王	ལྷུ་པོ་གཤིབ་ 光王	
		ཚོས་ཀྱི་ལྷུ་པོ་ 法の王	ཚོས་ཀྱི་ལྷུ་པོ་ 法の王	
		ལྷུ་པོ་རྒྱུད་ལྷ་ 風天の王	ལྷུ་པོ་རྒྱུད་ལྷ་ 風天の王	a
dhṛtarāṣṭro rāja 持国天				
	沒度婆訶娑囉地跋底囉惹 1000人の仏の主である王			b
		ལྷུ་པོ་བེ་ཙྰ་ 杖の王		c
			ལྷུ་པོ་ 王 (2回目)	d
			ཉི་མ་ スーリヤ	
			ལྷུ་པོ་སེམས་ 心王	
			ལྷུ་པོ་གཤིབ་རྗེ་དེ་དབྱུག་རྟོ་ཙྰ་ ヤマの杖を持つ王	
			ལྷུ་པོ་ལྷུ་པ་ 勝利の王	
			ལྷུ་པོ་རྣམ་པར་ལྷུ་པ་ 一切の勝利の王	
			ལྷུ་པོ་འཇིགས་པ་ 恐ろしい王	
			ལྷུ་པོ་རྣམ་པར་གཞིགས་ 一切を見る王	
			ལྷུ་པོ་འབྲུང་པོ་ ブータの王	
			ལྷུ་པོ་ཕུ་མ་འཕོ་རྒྱུང་ 眷属の王	
			ལྷུ་པོ་ལྷུ་པ་ 毘沙門天	

表4. ŚVの陀羅尼呪 ([3.2]) にあられる神々の対照表<sup>43</sup>

43 この表は [Iwamoto 1937b: 3] [Hidas2017: 468]、T1392、D、No.606 P、No.308、D、No. 2693 P、No.3517、[園田 2016, 2018] を参考に筆者が作成した。

を行ったことである。例えば、本来 ŚV-A 本の終結部にあたる「有情が歓喜する場面」を注釈書では欠いているほか、ŚV-B 本の注釈部分には本来注釈対象の經典に現れないラーフラに関する記述が含まれている。これらのことが生じた理由は明確ではないが、ラーフラが ŚV-A 本の主要な登場人物であることから、両經典が一つの関連した經典であるという一貫性を持たせるために ŚV-A 本の終結部の構成を調整したり、ŚV-B 本の注釈部分にラーフラの名を登場させた可能性がある。あるいは2点目に想定されることとして、ŚV-A 本と ŚV-B 本の内容が元々一つとなっているテキストを注釈者が使用したことがあげられる。なお、この場合は従来確認されている ŚV-A 本と ŚV-B 本以外の第3の ŚV 文獻が存在したことになるため、新資料の可能性に関しては今後写本研究を進める上で検討したい。

また、具体的に ŚVŚS の注釈対象のテキスト部分と ŚV-A 本を比較した際、2回に分けて説かれる陀羅尼呪の内容に一部相違が生じている。前半の陀羅尼呪で列挙される神々は ŚVŚS とチベット語訳で共通する一方、四天王や月王に関してはサンスクリット・テキストと ŚVŚS、漢訳とチベット語訳間でより多くの共通点が見受けられた。ŚV の経題にみられる多様性と同様に、様々な系統の写本が制作され展開したことがうかがえる。そのほか、ŚV-A 本の名称に含まれる 'daṇḍa' の意味に関して「歓喜」「杖」という先行研究の見解を示したが、本論文で取り上げた「ラージャグリハはダンダカ、カリंगा、マガダという3国を有す」という注釈を考慮した場合、杖を意味する 'daṇḍa' 以外にも「ダンダカ国の地名」あるいは「ダンダ王」や「ダンダーラニヤカ」の森の名も関係した可能性がある。特にダンダーラニヤカは『ラーマーヤナ』に登場する主要な場所であることや、邪悪な王といわれたダンダ王の話が説かれる『ヴァーマナ・プラーナ』にあらわれることから、ŚV-A 本やその原型といわれる『檀特羅麻油述経』といった初期密教經典成立の際にヒンドゥー教の影響を受けたことが推察される。ŚV-B 本へのヒンドゥー教の影響については次回の検討課題としたい。

## 【資料】 ŚVŚSにおけるŚV-A本再構成テキスト

以下は ŚVŚS で引用されている ŚV-A 本のテキスト部分を抜粋し、表 3 の内容構成に従い再構成したものである。比較対象として、チベット語訳 ŚV-A 本を参照し、異同がある場合は注に示した。なお、シェー ( /, shad ) の異同については報告しない。内容構成と各見出しは本論文「4. ŚV-A 本と ŚVŚS のテキスト内容比較」の表 3 と対応する。ŚV-A 本の和訳は「園田 2016」を適宜参考にした。

### 1. 使用テキスト

[チベット語訳]

ŚVŚS) 『明呪大妃大寒林經十萬註』

འཇམ་མཉམས་ཀྱི་རྒྱལ་མོ་ཚེ་རྩིས་ལ་བའི་ཚལ་གྱི་མངོན་འབྱུང་འགྲེལ་ཞེས་བུ་བ།

(Mahāśītavātīvidyārājñī-sūtra-śatasahasraṭīkā-nāma) D, No. 2693 N, No. 2316

ŚV-A) 『聖持大杖陀羅尼』 འཕགས་པ་མེ་ཚོ་ཚེ་རྩིས་བུ་བའི་གཞུངས་

(Ārya-mahādaṇḍa-nāma-dhāraṇī) D, No.606 P, No.308

[サンスクリット校訂テキスト]

SKT) *Mahāśītavatī* (Iwamoto1937b) (Hidas2017)

[漢訳]

CH) 『大寒林聖難拏陀羅尼經』 No. 1392 宋法天訳 Ad.984

[目録]

東北) 宇井伯寿・金倉円照・鈴木宗忠・多田等観編 1934 『西藏大藏經総目録』 東北帝国大学.











འཚིང་བའོ། ཡ་རོལ་གྱི་<sup>110</sup>བཅིངས་པ་ལས་གྲོལ་བར་བྱེད་པའོ། རད་དང་། ལྷ་དཔྱད་དང་། བཞེགས་རྣམས་འཛིགས་<sup>112</sup>པར་བྱེད་པའོ། འཐབ་པ་<sup>113</sup>རབ་ཏུ་  
 ཞིབར་བྱེད་པའོ། གདོན་ཐམས་ཅད་རྫོགས་པར་བྱེད་པའོ། གདོན་གང་གིས་མི་གཏོང་བ་དེའི་མགོ་ལྗང་<sup>114</sup>ཀའི་དོག་པ་བཞིན་ཏུ་<sup>115</sup>མགོ་ཚལ་<sup>116</sup>པ་བདུན་  
 དུ་འགས་པའོ།<sup>117</sup> གཞོད་སྤྱིན་གྱི་དེད་དཔོན་ཚེན་པོ་ལག་ན་རྗེ་ཡང་རྗེ་ཡང་བར་བ། ཀུན་ཏུ་འབར་བ། ཀུན་ཏུ་རབ་ཏུ་འབར་བ། མེ་ལྷེ་གཅིག་ཏུ་ལྷུར་པ།  
 དེའི་མགོ་ལྗང་<sup>118</sup>ཀའི་དོག་པ་བཞིན་ཏུ་ཚལ་<sup>118</sup>བ་བདུན་ཏུ་འགས་<sup>119</sup>སོ། རྒྱལ་པོ་ཚེན་པོ་བཞིས་ཀྱང་<sup>120</sup>ལྷགས་ཀྱི་འཁོར་ལོ་སྤྱི་གི་སོ་<sup>121</sup>ལྷ་སྤྱི་མཚོན་  
 ལྱིས་ལྷང་བར་བྱེད་དོ། གཞོད་སྤྱིན་གྱི་འཛིག་རྟེན་དེ་ནས་ལོ་འཕོས་ནས། ལྷང་ལོ་ཅན་གྱི་ལོ་བྱང་འཁོར་ཏུ་གནས་པ་མི་ཐོབ་པོ་<sup>122</sup>།  
 སྐྱ་གཅན་ཟིན་རྒྱལ་པོ་དང་མི་རྟོད་དང་། མེ་དང་། རྩ་དང་། མཚོན་དང་། འགྲོག་དང་། དཔོན་པ་དང་། ལྷ་དཔྱད་<sup>123</sup>སོང་བ་གང་གི་<sup>124</sup>ལེ་ཅོན་ཚེན་པོའི་  
 གཞུངས་ཀྱི་རིག་པ་<sup>125</sup>འདི་ལན་ཅིག་<sup>126</sup>བརྗོད་ན། ལྷོག་པ་ཐམས་ཅད་ལས་<sup>127</sup>ཐར་བར་འགྱུར་ལོ།  
 སྐྱ་གཅན་ཟིན་པེ་ཅོན་ཚེན་པོའི་གཞུགས་ཀྱི་རིག་ཐུགས་<sup>128</sup>འདི། སངས་རྒྱལ་བཅོམ་ལྷན་དངས་གཞུ་འི་ཀྱང་དཀྱའ་བུ་རྩ་རྩ་གཅིག་གི་ཤུམ་སྤེད་ཀྱིས་གསུངས་པ།  
 གསུང་བ་<sup>129</sup>གསུང་བར་འགྱུར་པ་གྲུབ་<sup>130</sup>མཚོགས་ཏུ་གྲུབ་པ། གཞན་གྱིས་མི་ཐུབ་པ།  
 ལྷ་དང་། ཀྱུང་དང་། དྲི་བ་དང་། གཞོད་སྤྱིན་དང་། ལྷ་མ་ཡིན་དང་། རྣམ་མཁའ་ལྗིད་དང་། མི་འམ་ཅི་དང་། ལྷོ་འཕྲེ་<sup>131</sup>ལ་སོགས་པས་བསྐྱེད་པ། འབྱུང་པོའི་  
 ཚོགས་<sup>132</sup>ཐམས་ཅད་ཀྱིས་ཡོངས་སུ་བརྒྱུད་བ་སྟེ། བདག་དང་སེམས་ཅན་ཐམས་ཅད་གཞོད་པ་ཐམས་ཅད་ལས་བདེ་ལེགས་སུ་<sup>133</sup>ལྷུར་ཅིག་ནད་མེད་པ་  
 དང་འཛིགས་པ་མེད་པར་ལྷུར་ཅིག།

[4]<sup>134</sup> (欠)

[5]<sup>135</sup> (欠)

---

110 རོ་SV-A པའོ  
 111 གྱི་SV-A ལྱིས་  
 112 རྣམས་འཛིགས་ SV-A རྣམ་པར་འཛིག་  
 113 པ་SV-A པའི་རྫོགས་པ་  
 114 ལྗང་ SV-A ལྗང་  
 115 ཏུ་SV-A omit.  
 116 ཚལ་ SV-A ཚལ་「破片」が適切と思われるため、SV-A の訳を採用した。  
 117 འགས་པའོ་SV-A འགྲོགས་སོ།|粉砕する  
 118 བ་SV-A བ་  
 119 འགས་ SV-A འགྲོགས་  
 120 བཞིས་ཀྱང་ SV-A བཞི་ཡང་  
 121 སྤྱི་གི་སོ་ SV-A སྤྱི་གི་སོ་  
 122 ཐོབ་པོ་SV-A འཐོབ་པོ།  
 123 ལྷ་དཔྱད་ SV-A རི་དང་ལྷ་དཔྱད་「山や憂え苦しむ所に」  
 124 གི་SV-A གིས་  
 125 རིག་ SV-A རིག་ཐུགས་「明呪」  
 126 ཅིག་ SV-A གཅིག་  
 127 ལས་ SV-A ལས་རབ་ཏུ་「~から完全に」  
 128 གཞུགས་ཀྱི་རིག་ཐུགས་ SV-A གཞུངས་ཐུགས་  
 129 བ་SV-A གི་  
 130 འགྱུར་པ་གྲུབ་ SV-A འགྱུར་བ་  
 131 དང་། གཞོད་སྤྱིན་དང་། ལྷ་མ་ཡིན་དང་། རྣམ་མཁའ་ལྗིད་དང་། མི་འམ་ཅི་དང་། ལྷོ་འཕྲེ་ SV-A omits.  
 132 དེ་ཚོགས་ SV-A omits.  
 133 བདེ་ལེགས་སུ་ SV-A བཏེབས་  
 134 SVSS omits., SV-A བཅོམ་ལྷན་དངས་ཀྱིས་དེ་སྐད་ཅེས་བཀའ་ལྷན་ནས། ཚོད་ལྷན་པ་སྐྱ་གཅན་ཟིན་ཡིད་རངས་ཏེ། བཅོམ་ལྷན་དངས་ཀྱིས་གསུངས་པ་ལ་མཁའ་  
 པར་བསྐྱེད་དོ། །འཕགས་པ་ལེ་ཅོན་ཚེན་པོའི་ལྷུ་བཞེགས་པ་ཚེན་པོའི་མདོ། རྗོགས་སྟེ། །  
 135 SVSS omits., SV-A ། །རྒྱ་གར་གྱི་མཁའ་བོ་རྗོན་མི་ཏུ་དང་། དུ་ན་ལྷོ་ལ་དང་། ལུ་ཚེན་གྱི་ལོ་རྒྱུ་བ་བཟང་དེ་ལེ་ཤེས་ལྷན་བསྐྱུར་ཅིང་ལུས་ཏེ་སྐད་གསར་ཆད་ཀྱིས་ཀྱང་  
 བཅོམ་རྣམས་གཏན་ལ་པལ་པ། །

## 【略号表】

- ŚV-A *Mahāśītavatī* → Iwamoto Yutaka. 1937b, 『大寒林聖難拏陀羅尼經』 (T1392), phags pa be con chen po shes bya ba'i gzungs 『聖持大杖陀羅尼』 (P, No.308 = 583 D, No.606 = 958)
- ŚV-B *Mahāśītavatī* → bsil ba'i tshal chen po'i mdo 『大寒林經』 (P, No.180 D, No.562)
- ŚVŚŚ *Rig sngags kyi rgyal mo chen mo bsil ba'i tshal gyi mdo'i 'bum 'grel zhes bya ba* (D, No. 2693 P, No. 3517)

## 【参考文献】

- 大塚伸夫 2010 「『檀特羅麻油述經』に見る初期密教の特徴」『高野山大学密教文化研究所紀要』 23 : 147-169.
- 奥山直司 1998 「初期密教經典の成立に関する一考察——『マハーメントラヌサーリニー』を中心に——」松長有慶編著『インド密教の形成と展開 松長有慶古稀記念論集』法藏館、67-86.
- 川越英真 2005 『dKar chag 'Phang thang ma』東北インド・チベット研究会.
- 園田沙弥佳 2016 「『大寒林陀羅尼』*Mahāśītavatī* 異本について」『印度学仏教学研究』65 (1) : 150-154.
- . 2018 「『大護明陀羅尼』*Mahāmantrānusāriṇī* 別本について」『印度学仏教学研究』67 (1) : 170-175.
- 塚本啓祥・松長有慶・磯田熙文編 1989 『梵語仏典の研究 IV 密教經典編』平楽寺書店.
- 芳村修基 1974 『インド大乘仏教思想研究—カマラシーラの思想—』百華苑.
- Hidas, Gergely. 2017 *Mahā-Daṇḍadhāraṇī-Śītavatī: A Buddhist Apotropaic Scripture, Indic Manuscript Cultures Through the Ages: Material, Textual, and Historical Investigations (Studies in Manuscript Cultures)* Pages: 449-486 Berlin, Germany
- Iwamoto, Yutaka. 1937a. *Beitrag zur Indologie*. Heft1, *Mahāsāhasrapramardanī (Pañcarakṣā I)*. Kyoto, Shōbundō.
- . 1937b. *Beitrag zur Indologie*. Heft2, *KLEINERE DHARANI TEXTE*, Kyoto: Shōbundō.
- . 1938. *Beitrag zur Indologie*. Heft3, *Mahāpratisarā (Pañcarakṣā II)*, Kyoto: Shōbundō
- Matsunami, Seiren (comp.). 1965. *A Catalogue of the Sanskrit Manuscripts in the Tokyo University Library* (『東京大学附属図書館所蔵 梵文写本解説目録』). Tokyo.
- Skilling, Peter. 1992. "The Rakṣā Literature of the Śrāvakayāna." *Journal of the Pali Text Society* 16: 109-182.

キーワード : Pañcarakṣā、初期密教經典、『大寒林陀羅尼』、『ラーマーヤナ』、『ヴェーマナ・プラーナ』